

人口減少社会とどうむきあうか？

田園回帰の流れを加茂谷に呼び寄せられるのか…

阿南市加茂谷地区 人口動態分析結果報告会



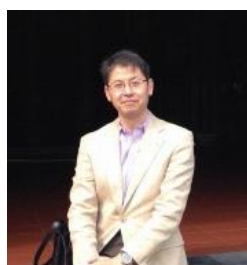
日時 平成30年 **11月21日 [水]** 18:30受付開始 19:00開会

場所 **加茂谷公民館2階大ホール** 阿南市加茂町野上22番地11 電話0884-25-0113

主催 徳島県南部総合県民局農林水産部

(阿南農業支援センター)

お問合せ 電話 0884-24-4182



講師 藤山 浩(ふじやま こう)

一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所 所長
(島根県益田市隅村町)

今、ここに住み、思うこと

この半世紀の間に形成された新たな地域社会である団地やマンションを見ていると、歴史始まって以来初めて、そこに暮らす人々の間でお互いの生きていく営みの記憶が共有されていない地域社会が形成されつつあるような危惧を覚えます。誰かが死んだとしても、その人ががんばって生きた記憶が伝わっていかないとすれば、それはとても悲しい社会です。

私は、今住んでいる中山間地域の集落で恐らく死ぬでしょう。そうした意識で集落を見渡すと、田んぼにしても水路や橋にしても木々にしても、今はもう亡くなられた方々の長年の営みにより、今の風景に彫琢されてきたことを感じます。お葬式に参列し、お話を聞くと、自分一代だけの損得ではなく高い志を持ってよい仕事を後世に残された方々の生き様に頭が下がります。そのような記憶を少しずつ共有し伝承する中で、自分たちも少しはがんばってみようとする健気さが一人一人の心に宿るのではないのでしょうか。

私たちは、皆、いずれ死んでいく存在です。しかし、だからこそ、美しい営みを次の世代へと伝えていく末長い輪の中に身を置きたいと思います。その場限りの「使い捨て」を続ける人や地域は、過去の尊い営みを消し去るだけでなく、未来に足跡を遺すこともできないでしょう。田園回帰によって都市と中山間地域のバランスを回復させる中で、私たちは、そこに生きる人々の記憶が紡がれる「地元」を取り戻していくべきだと考えます。「美しさ」と「時間」と「記憶」は、三位一体で「地元」の中でつながっていくのです。

(『田園回帰1%戦略』おわり)により)